

第41回留萌管内造形教育研修会より ～児童生徒がいきいきと描く人物画の工夫～

平成23年9月12日 講師 増毛町立別荘小学校 滝本都子教頭先生

天塩町立天塩中学校 工藤 臣

滝本教頭先生講義

題材との出会いは大切な瞬間！

①どうして、その題材を描かせたかったか、考える

みんながとても一生懸命
がんばっていた姿がとて
も心に残った。だから運
動会の絵を描かせた
い！！

みんなが運動会で一番がんばったのはどんなと
ころ？たくさんがんばったことがあるよね！そのがんば
りを絵にして、教室いっぱいみんなのがんばりを集
めたいな！！(意欲付け)

魔法の言葉

美術による人間形成より

『美術による人間形成』の中で、著者は、言葉がけ(美術上の刺激)の重要性を唱えている。例えば、なぐり描きの段階(2才～4才)において、子どもが紙の隅に小さななぐり描きをしているような時は「大きく描きなさい」とか「紙いっぱい描きなさい」といってみても無駄である。なぐり描きの動作を広げてあげるために「君はスケートリンクに行ったことがありますか」「そのスケートリンクはどこでもみんな君が全部遊べるのですよ。でも君は隅の方だけで遊んでいるかな。」「君がどんなふうにするか私に見せてください。」「この画用紙をスケートリンクにしてみよう。さあ、クレヨンでその上をすべってみよう。」こうしてひとつの動作は、いっそう意味のあるもうひとつの動作となり発展する。

活動中はまなびのとき！そして、ほめる！！

②「ほめる」ときのポイントをおさえる(身に付けさせたい方)

〇〇さんは、動きが伝わってくる絵だな。

うわ～、〇〇さん、腕を一生懸命伸ばしているね。
がんばっている気持ちが伝わってくるよ！髪の毛もこの動きに合わせて、どんな感じになるかな？
(具体的に)

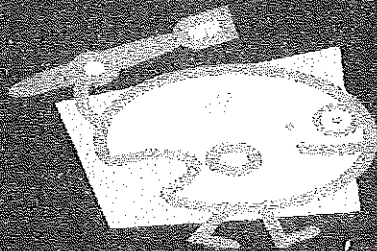
子ども同士の言葉も活動を動かすことに繋がります

髪の毛はこうやって動くのかな

ほんとだ！
〇〇さんの腕すごいね

私もやってみよう！

魔法の言葉



自己表現の最初の段階

—なぐり描きの段階—(2～4才)

再現への最初の試み

—様式化前の段階—(4～7才)

形態概念の成立

—様式化の段階—(7～9才)

写實的傾向の芽生え

—ギャング・エイジ—(9～11才)

擬似写實的段階

—推理の段階—(11～13才)

青年期の美術(13才～)

『美術による人間形成』の中で、上記にある各段階においての適切な美術上の刺激が紹介されている。また、各段階における知的成長、情緒的成長、社会的成長、知覚的成長、身体的成長、美的成長、創造的成長についての分析が行われている。



「中学校における人物画の指導」

中学生の発達段階にみる特徴

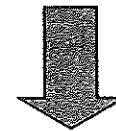
中学生は、造形的な発達段階からいうと青年期の美術となる。また、この時期は青年期の危機と呼ばれている。

危機とは？

青年期の特徴

- ・自我意識の拡大
- ・批判的意識の芽生え

このような特徴が造形活動の中でどのような行動となって表れるか。



- ・子どもっぽい表現にがっかりして何も描けなくなる。

絵の具での着色は、具体的な指示で！

③指導時間数分のパレットの色の構成を考える

1～2時間目 人の肌の色をぬる

→パレットには、黄色や茶色、黄土色、赤など指定した色を出す。

○種類の色をつくってすごいね！また違う色もつくと、腕の色にちょうどいいかもしれないね！

魔法の言葉

→終わった後、パレットは洗わずに、乾かして次の時間も活用すると、子どもたちもちょっと楽です。

3～4時間目 服の色をぬる

→さらに、パレットに青を加える。
(前時の色との混色が可)

〇〇さん、この時どんな色のジャージ着てたっけ？

ほくの服には、線が入っていたんだ。

靴も同じ色だったんだよ！

子どもたちの声を十分に生かす。その声に寄り添いながら、次の活動を促すように声をかける。子どもたちの声を繋ぐのは指導者の役割

5～6時間目 周りの風景の草の色をぬる

→パレットがそろそろ汚くなってきているところ。生かせる部分は生かしつつ、さらに追加の色を出させ、混色をさせる。もし、どこにも色をつくる余地がなければ、個別に対応してあげるよい。みんな同じでなくても大丈夫。

鑑賞のポイント＝指導のポイント

④子どもたちは、自分のがんばったことと重ねながら、友達の絵をみる！

人物の動きに力を入れた下書きを指導

右と左の腕の場所がすごくいい。

足を曲げて、力を入れている感じがする。

肌の色の色づくりに力を入れた指導

〇〇さんが、目に焼けた感じの色になっているところがいいな。

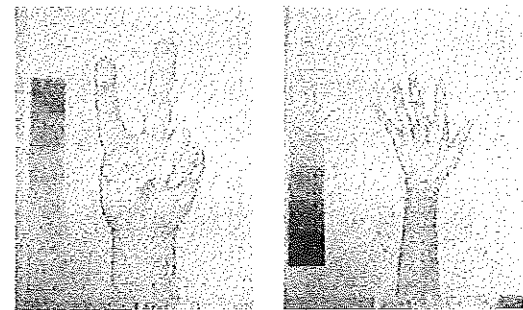
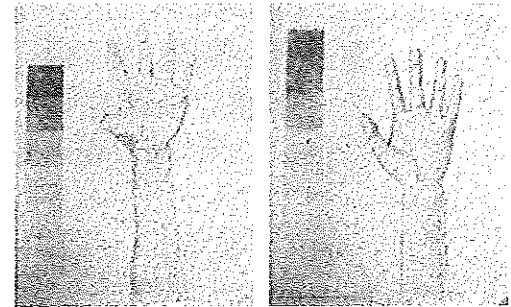
ぼくのつくった色とちがっていて、どんな風につくったのかなと思いました。

したがって
この時期においての
美術上の刺激とは？

○創造に必要な知識や技術の習得
により自信をつけていくこと

＜絵画の指導の実際＞
～わたしの実践～

1年生「明暗の作り方」
「手のデッサン」



鑑賞は、絵が完成したときにだけ行うものではありませんが、最後にも友達同士、絵を見合うという活動を入れることはあるのではないのでしょうか。活動中に発してきた「魔法の言葉」は、鑑賞のとき、子どもたちの言葉に表れることがあります。子ども同士で交わされる「魔法の言葉」にも、次への意欲につながる力があると思います。

ただ、子ども同士の言葉は、教師の繋ぐ役割が入らないと効果が薄くなってしまいます。全体に広げ、深めていくことができれば、先生一人がすべてを言う必要がなくなります。子どもたちの言葉を活用できるようになりたいですね。

改めて言葉がけの大切さを！

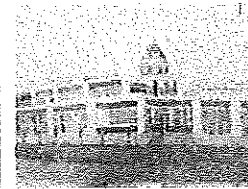
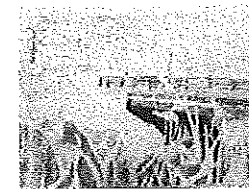
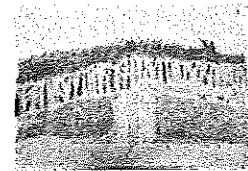
これは、難しい……一人一人違い、題材も違う中で「○○って言えば、素晴らしい絵になります！」というものはないからです。しかし、先生の放つ言葉には力があって、その言葉によって活動が動き、意欲が高まり、子どもたちの心が動くのは間違いありません。私たちは素敵な「魔法の言葉」をたくさん使えるようになりたいですね。

1年生「木版画」

～クラスメイト～



2年生「風景画」



3年生「自画像」

